

新しい地域創造に挑戦する『奈良県立大学 地域創造研究センター』 ～「コロナ禍における奈良県経済の課題と展望」をテーマにフォーラムを開催～

奈良県立大学は、2020年6月「地域創造研究センター」を設立し、新しい地域創造の挑戦を始めた。同センターは、これまで行われてきた地域創造の営みを継承しつつ、アフターコロナの奈良県経済の可能性を探るための調査・研究活動を行うなど、時代の新たな方向性を切り拓く役割を担っていく。2021年2月、新校舎「コモンズ棟」において、同センターの研究ユニットがフォーラムを開催した。

1. 奈良県立大学 地域創造研究センターの設立

(1) 概要

「地域創造」とは、様々な立場の人々が互いに協力し合うことで地域の魅力を高め、豊かな生活を享受できる社会を創ることを意味する。

地域創造研究センターは、地域創造学部を有する奈良県立大学の強みを活かし、地域創造に関する専門的・学際的な研究を通じて地域リーダーを育成するとともに、地域住民・企業・地方公共団体等と連携しつつ奈良から地域創造の可能性を広げていくことを目指している。

(2) 機能

① 研究推進機能

学術領域を横断するプロジェクト研究ユニットが組織され、学外の共同研究者を加えて独自の視点から現代社会の構造解明を目指している。

■ プロジェクト研究ユニット (2020年11月現在)

ユニット名称	研究代表者
撤退学研究ユニット	堀田 新五郎 教授
仕事文化研究ユニット	玉城 毅 教授
持続可能な観光開発研究ユニット	中谷 哲弥 教授
ファッション環境デザイン研究ユニット	西尾 美也 准教授
アフリカ現代美術研究ユニット	西尾 美也 准教授
「美術は教育」研究ユニット	西尾 美也 准教授
自律的コミュニティ研究ユニット	梅田 直美 准教授
奈良地域経済研究ユニット (後述)	下山 朗 教授
路地文化研究ユニット	松岡 慧祐 准教授
ローカルメディア研究ユニット	松岡 慧祐 准教授

② コンシェルジュ機能

地域創造を担う諸団体の良き相談相手として地域からの相談・共同研究・受託調査等を受け付ける窓口となっている。

また奈良県内を中心に諸団体の地域経済活動を集約させ、様々な関係者をつなぐ結節点としての役割も担っている。

2. 地域創造の実践の場「コモンズ棟」がオープン

2020年10月、キャンパス内に新校舎「コモンズ棟」(地上3階)がオープンした。同大学の教育の特色である「学習コモンズ(学習領域ごとに学生と教員が集う学びの共同体のこと)」を核とした「少人数対話型の教育」を実践する施設として活用され、地域創造研究センターの活動拠点となる。施設全体が能動的な学びの場となる「交流と創造の学習空間」をコンセプトとしており、講義やグループ学習、自習が可能な教室や学生の交流を促すオープンスペースを備えている。



上：奈良県立大学コモンズ棟(外観)
右：コモンズ棟内のオープンスペース

3. フォーラム「コロナ禍における奈良県経済の課題と展望」の開催

(1) 開催経緯

奈良県立大学の下山朗教授(当時・現大阪経済大学経済学部教授)、村瀬博昭准教授と一般財団法人南都経済研究所は、新型コロナウイルス感染症の奈良県経済への影響に関する共同研究を目的に、「奈良地域経済研究ユニット」を立ち上げた。そして同センターの設立と同時に、同センターのプロジェクト研究ユニットとして活動を開始した。

同ユニットでは2021年2月、共同研究の成果報告と同大学の学生が実施したフィールドワーク

の結果発表を目的にフォーラム「コロナ禍における奈良県経済の課題と展望」を会場とオンラインのハイブリッド方式で開催、約50名が参加した。

(2) 発表内容 (発表順)

発表者①	一般財団法人 南都経済研究所
テーマ	新型コロナウイルス感染症が奈良県産業に与えた影響

「テレワーク」「V-RESAS」「観光」「企業動向」の4点に関し、指標分析や独自に実施したアンケート調査の結果から、コロナ禍が奈良県経済に与えた影響を報告。

発表者②	奈良県立大学地域創造学部 下山朗教授
テーマ	コロナ禍における中小企業の経営状況と行動変容

下山教授が、関西2府4県の中小企業者を対象に実施したアンケート調査の結果から、コロナ禍における企業の行動変容の実態を報告。



発表の様様 (左: 南都経済研究所、右: 奈良県立大学 地域創造学部 下山朗教授)

発表者③	奈良県立大学 NACS* 地域経済研究グループ (山本彩加、畠中光季、森永千晴、吉澤舞、若杉悠里) 敬称略 ※プレゼン手法等を学ぶ同大学のサークル
テーマ	お土産消費の経済波及効果—地元産お土産の可能性—

観光消費の柱の一つである土産品において、地元の食材や製造品の使用比率が、奈良県は京都府と比べて低いことをフィールドワークにより確認。地元の食材や製造品を使用することの重要性を経済波及効果の算出結果をもとに提言。

発表者④	奈良県立大学 NACS 地域経済研究グループ (奥田浩史、北村瞳子、郷野真紘) 敬称略
テーマ	コロナ禍における大学周辺地域の現状と考察

コロナ禍で大学の授業がオンライン中心となったことに伴う大学生の消費行動の変化をアンケート調査の結果をもとに分析。大学周辺での消費減少により失われた経済効果を算出することで学生街の窮状を明らかにし、支援の必要性を提言。



発表の様様 (奈良県立大学 NACS 地域経済研究グループ)

(3) 参加者の感想等

奈良県経済に焦点を当て、ミクロ・マクロ両面から独自のアンケート調査やフィールドワーク、データ分析をもとに細部に切り込んだ内容であったことから、参加者の満足度は総じて高かった。特に学生の発表は、フィールドワークの結果をもとに提言にまで踏み込んだ内容で、指導教員を含め高く評価する声が多かった。

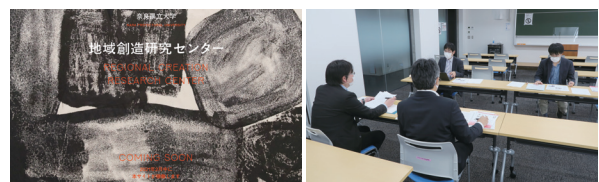
コロナ禍においては同大学でもオンライン講義が中心となっているが、今回のフォーラムはモモンズ棟最大の教室で開催された。「大学の教員・学生と外部専門家が一体となり課題に取り組む大学本来の風景を目の当たりにして感銘を受けた」との声があったが、各々の知見を結集し成果を生み出す場となることは、まさにモモンズ棟本来の機能である。今後モモンズ棟は、常に活気に満ち溢れた空間となり、地域創造の実践の場として、様々なプロジェクトが展開されることだろう。

4. 時代の転換点で新たな地域創造に挑戦

同大学は「地域創造研究センター」専用のHPサイトを2021年2月に立ち上げた。今後、プロジェクト研究ユニットなどの「研究推進機能」、相談窓口としての「コンシェルジュ機能」の一層の強化を目指す。

コロナ禍の今後の展開が不透明な中、「奈良地域経済研究ユニット」では、奈良県の経済動向について調査・研究を続けていく。これからも共同研究の質を高め、新しい地域創造に挑戦するとともに、地域に役立つ情報発信に取り組んでいく。

(秋山利隆)



(左) 地域創造研究センター HP

(右) 奈良地域経済研究ユニットの活動風景